

インフルエンザ施設別発生状況におけるペーパーレス化の考察

—感染症流行情報提供システム—

◎青野 実¹⁾
横浜市衛生研究所¹⁾

【はじめに】

近年、SDGs (Sustainable Development Goals) への貢献として、ペーパーレス化が推進されているが、横浜市においても紙の使用量には、目標を設定した取り組みが行われている。感染症に関連する紙の排出には、十分な管理の下、適切な廃棄処分が求められている。当課では、インフルエンザ施設別発生状況において、各施設から送信される発生報告書を印刷して対応してきたが、ペーパーレス化の運用に変更することで、若干の知見が得られたので報告する。

【目的】

感染症発生動向調査 (National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease ; 以下 NESID) へ計上する、インフルエンザ施設別発生状況の運用に必要な業務のペーパーレス化を目的とする。

【方法】

Excel の VBA (Visual Basic for Applications) で構築した感染症流行情報提供システム (以下登録システム) を改修して、発生報告書をハイパーリンクの機能を利用し、登録シ

ステムとリンクさせることで、従来の運用と比べて負担のないペーパーレス化の実現を図る。

【結果と考察】

インフルエンザ施設別発生状況は、NESID を利用して、患者報告数等を報告している。今回のシステム改修では、連番による受付番号をキーとして、必要なシート上にハイパーリンクの機能を追加することで、Excel 上のシートから発生報告書を読み出す仕様とした。また、NESID への計上には、1 週間を単位として、各施設での患者数や閉鎖状況を踏まえて、加算や必要な修正を行って報告する必要がある。そのため、発生報告書を確認しながら作業を行う必要があり、シート上から発生報告書を閲覧可能なことは、運用上の重要なポイントとなっている。

【まとめ】

本研究により、ペーパーレス化の取り組みが推進され、テレワークによる業務改革やワーク・ライフ・バランス等の改善を図ることが期待される。

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課—045-370-9237